



テーマ | 北海道・東北が舞台の小説

Pick UP!

『藍色ちくちく 魔女の菱刺し工房』

高森美由紀 / 著 (中央公論新社)

ISBN: 978-4-12-005620-8

より子おばあちゃんが菱刺しを教える工房。それぞれに事情を抱えた人たちが、一目一目数えながらちくちく糸を通し、人生を見つめる。青森県南部地方の伝統的な刺し子、菱刺しを扱った物語。

方言により感じられる地方の温もりは、寒い日にぴったり。



『札幌誕生』門井慶喜 / 著 (河出書房新社)

ISBN: 978-4-309-03948-0



札幌という街がいかにして作られたか、それにまつわる人がどのように生きたのか。内村鑑三の札幌農学校時代、作家として名高い有島武郎が牧場主をしていた話など、意外な側面を知ること。

史実に基づいた北海道開拓時代の作品。



『はんぷくするもの』日上秀之 / 著

(河出書房新社) ISBN: 978-4-309-02760-9

震災の津波で店を流され心を病んだ毅は、プレハブで商店を営んでいる。3千円のツケを払わない古木、盗んできたものを商品にしろという武田。

幸せとは言い難い毎日を繰り返す、「はんぷく」することで、日常に戻っていかうとする人々の思いが伝わってくる。



QRコードを読み込むと、品川図書館のホームページから本の詳細を確認することができます。

→裏面もチェック!

『その音は泡の音』平沢逸 / 著 (講談社)

ISBN:978-4-06-534271-8



大学の夏休みに行われるお笑いサークルの合宿。レンタカーで公演しながら移動する10日間の旅。東北班の面々は、初日の目的地である福島に向かうが、早々に予定が崩れてしまう。

現実と妄想の境界が曖昧で、まさに泡のような群像劇。



『逃亡者は北へ向かう』柚月裕子 / 著 (新潮社)

ISBN:978-4-10-356131-6



震災後の福島県で起きた、2つの殺人事件。容疑者の足取りを追うと、北に向かっていることが判明。津波で娘を失った刑事は容疑者を追う。2人のたどり着く場所とは……？



注目の新刊

12/1～12/28の間に新しく受け入れた本の中からおすすめを紹介！

タイトル	著者 出版社	ISBN
あーあ。 織守きょうや自業自得短編集	織守きょうや/著 光文社	978-4-334-10814-4
ぼくには笑いがわからない	上村裕香/著 KADOKAWA	978-4-04-115383-3
超すしてる	須藤アンナ/著 中央公論新社	978-4-12-005974-2
博士とマリア	辻村七子/著 早川書房	978-4-15-031610-5
ハルシネーションの庭	村崎なつ生/著 集英社	978-4-08-680668-8